

令和 5 年 6 月 14 日現在

機関番号：34316

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2019～2022

課題番号：19K00406

研究課題名(和文) アメリカ文学におけるホテル的空間の文化史

研究課題名(英文) A Cultural History of Hotel-like Spaces in American Literature

研究代表者

池末 陽子 (Ikesue, Yoko)

龍谷大学・文学部・准教授

研究者番号：10792905

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,300,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は建国期から現代までのアメリカ文学における「ホテル」の意義を考察することによって、新たなアメリカ文化史の構築可能性を追求することを目的とした。アメリカ的想像力が特徴的にデザインしてきた「ホテル」表象という視座に立ちつつ、19世紀から現代までホテルを舞台あるいは主題とするアメリカ小説からそのエッセンスを丹念に抽出し、アメリカ資本主義と例外主義を駆動してきた幻想性が、いかにアメリカ的「ホテル」空間を特異なものに変質させ、そこにどのような亡霊性を生じさせたのか、モビリティとモダニティをキーワードに学際的な考察をおこなった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

ヨーロッパ的な王侯貴族の伝統的宮廷文化を否定することによって建国された実験国家、アメリカ合衆国において「ホテル」は、初期においては移動や共同体にかかわる実際的な必要性から構築された社交・宿泊空間であった。本研究成果の社会的意義は、世界の雛形としての「アメリカ」の揺らぎと常に共振し続けてきた「ホテル的空間」の文化装置としての意義を問うことにより、ひとつの文化史構築の可能性を呈示したことにある。

研究成果の概要(英文)：This study aimed to explore the possibility of constructing a new American cultural history by examining the significance of the "hotel" or hotel-like spaces in American literature from the Founding Era to the present day. From the perspective of the representation of the "hotel" as a distinctive design of the American imagination, we extracted the essence from American novels set in or about hotels, and examined how the fantasy that has driven American capitalism and exceptionalism has transformed the American "hotel" space into something peculiar, what kind of ghostly nature has been created there, with mobility and modernity as keywords.

研究分野：アメリカ文学

キーワード：ホテル 移動 身体 モダニティ 家族 没場所性

1. 研究開始当初の背景

遠方への移動が可能になれば、宿泊の場を提供する必要性が生じる。アメリカにおいて、宿泊という行為を通じて作り出される、出入り自由な他者との共同空間が始動したのは17世紀の植民直後からであり、19世紀以降法整備や科学技術の発展を伴って一つの産業として確立されてくこととなったが、同時にアメリカン・ドリームと密接に結びついた幻想性を宿命的に帯びた磁場としての役割も担ってきた。

起点となったのは、研究代表者池末が講師として加わった日本英文学会第91回大会シンポジウム「アメリカの ホテル 的空間 外部と内部、移動と定着が交差する場所」(2018年5月22日)である。本シンポジウムでは、ホテル表象をホームや家族というテーマから分析するものであったが、これに加えてモダニティとモビリティというホームと対立する概念からホテル表象を読み直すことはできないかと考えたのが本研究の端緒である。そして、多様な人々が行き交い、現実と幻想が交差する場所に根差すアメリカ的想像力を再考し、ホテルをめぐる新たなアメリカ文化史の構築を、歴史的/主題的に異なる専門性を持つアメリカ文学研究者で役割を分担して、主に一次資料を解析することで、実証的に明らかにすることを目指すこととなった。

2. 研究の目的

植民地建設という大事業を前に、人々はまず生活の場を「イン(inn)」に求めた。戦火で公的建物やホワイトハウスが毀損した時には、議会開催にホテルが使われ、政治の最前線の舞台ともなった。英米戦争以後から1840年までが黎明期、そこから1880年あたりまでが、鉄道ホテルを代表とする大陸内移動拠点としての発展の時代、19世紀末から20世紀初頭にかけてが、標準化/ネットワーク化の時代であり、その後は社会の変化に伴い、のちのホテルM&Aにつながるホテルリースの基盤が出現してくる。1920年に入り、大恐慌時代を経てホテル産業は停滞の時期を乗り越え、1950年代には車による移動の需要を原因としてモーテルが増大し、1960年代以降は付加価値の増幅から設備投資重視経営への転換がはかられた。そして、不動産としての資産価値と動産としての流動性の両方を併せ持つ資本主義基盤の「経済活動」の場として現在もホテルは発展中である。この「ホテル」という文化装置を文学作品における表象から分析し、新しいアメリカ文化史の構築に挑むことが本研究の目的であった。

3. 研究の方法

(1) 本研究では、19世紀から20世紀初頭のホテル産業の興隆と文化装置としての歴史的社会的意義、モダニズム期の狂乱の中で風俗拠点となったホテルやキャバレーの社会文化的考察、移動手段が「自動車」へとシフトした時代のモーテルの文化史、20世紀の資本主義国家アメリカにおける現実と幻想の狭間の文化装置としての特殊性、という4つのテーマからホテル的空間の文化装置としての意味を考察した。

(2) テーマでは、まず捕鯨町のインを描くハーマン・メルヴィル、都市の「ホテルっ子」を自称したヘンリー・ジェームズ、ホテルを舞台とした作品を執筆したウィリアム・ディーン・ハウエルズ、ホテルで働く移民を描いたフランツ・カフカの作品から産業と共同体幻想の起点としてのホテル表象を読み解くことを目指した。そしてホテルという人工密室空間を舞台とするゴシック小説や現代恐怖小説に描かれる人間ドラマと場所の呪縛性を、エスニシティや共同体意識の側面から分析した。

(3) テーマでは、大西洋横断・ヨーロッパ渡航を経験したモダニズム期の作家たちの作品に散見される実在のホテルの描写に着目した。「ホテル」というモチーフを焦点化して、モダニズム作家におけるそのトポグラフィーを体系立てた研究は多くなく、まだ開拓の余地があったためである。特に人種や国民国家、新旧大陸の葛藤など個別には論じられてきたモダニズム的テーマが、一点に集約する「場」としての「モダニズム文学におけるホテル」特にアメリカ人が投宿するヨーロッパのホテルを主軸に、風俗的側面からの考察を目指した。

(4) テーマでは、ウラジーミル・ナボコフの代表作『ロリータ』(1955)とスタンリー・キューブリック監督によるその映画翻案作品『ロリータ』(1962)を取り上げ、ヘテロトピアとしてのモーテル空間の言語化/映像化の(不)可能性を検討した。自動車による観光旅行が人気を博した大衆消費文化時代のエスノグラフィーたる同小説の原作版/映画版の分析を起点に、同時代作家ジャック・ケルアックのロード・ナラティブ群やアルフレッド・ヒッチコック監督の映画作品との主題的共通性を視野に入れつつ、アメリカのモーテル文化の意義を環大西洋的な戦後文学史・映画史との関連において考察した。

(5) テーマでは、ドン・デリーロ文学、ポール・オースター文学を基盤としつつ、スティーヴン・ミルハウザーの『マーティン・ドレスラー』や、イギリス作家、ウィル・ワイルズが『ウェイ・イン』において描出した未来志向のハイブリッドなホテルの生態系も絡め、通時的かつ共時的に現代英語圏文学のホテル表象を総括し、新たな文化史の構築を目指した。

4. 研究成果

日本アメリカ文学会関西支部 10 月例会にて、シンポジウム「「変容する〈ホテル〉の時空間」(2020 年 10 月 24 日)をおこなった。本シンポジウムでは「ホテル」を「ホーム」と対立する概念として捉え、「モビリティ」と「モダニティ」を備えた装置として読み直した。池末は「ホテル的空間の文化史序説」のタイトルで、19 世紀後半の行楽ホテルとウィリアム・ディーン・ハウエルズの“Last Days in a Dutch Hotel”(1897)にみるホテルの閉鎖性と身体性について論じた。千代田は、イーディス・ウォートンの作品群から、フィッツジェラルドの時代の実在するホテル描写にみる結婚観と風俗拠点について論じ、人の営みを感じさせる場としてのホテルを考察した。後藤は、ウラジーミル・ナボコフの『ロリータ』(1955)を中心に、モビリティの中のインモビリティという論点にエスニシティというスクリーンを重ねた「開かれた閉鎖空間」についての試論を発表した。渡邊は、スティーヴン・ミルハウザーの『マーティン・ドレスラー』(1996)において、「ホテル」を拡張する身体ととらえ、都市論、建築論、身体論、歴史時空間が交錯するポスト・ヒューマン的な場としてのホテル論を展開した。

本シンポジウムを基点とした個別の研究成果は、日本英文学会第 91 回大会シンポジウム(2018 年 5 月 22 日)のメンバーである長岡真吾、喜納育江、齊藤弘平、他四名を加えた論文集『アメリカ文学におけるホテル的空間の文化史』(小鳥遊書房、編集は池末、後藤、齊藤)として、今年度刊行することになっている。

また研究代表者であった池末は、本研究と連続性を持つ「場所の特殊性(没場所性)」についての研究を今後も継続していく予定である(題目は「19 世紀アメリカ白人男性文学と“non-place”の感覚」、研究代表者は竹井智子・京都工芸繊維大学)。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計5件（うち査読付論文 0件／うち国際共著 0件／うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 千代田夏夫	4. 巻 21
2. 論文標題 実定法から書かれざる法へ 「最後の理想郷」から見る、ヘミングウェイ作品の ちゃんとしていない結婚	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『ヘミングウェイ研究』	6. 最初と最後の頁 7-17
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 池末陽子	4. 巻 496
2. 論文標題 Hotel Nightmares アメリカ文学におけるホテル的空間の文化史(1)	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 龍谷大学論集(龍谷大学龍谷学会)	6. 最初と最後の頁 107-120
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 渡辺克昭	4. 巻 47
2. 論文標題 躍動する無限「ホテル」の闇の奥 『ウェイ・イン』におけるアクターネットワークの生成と変化	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 英米研究(大阪大学英米学会)	6. 最初と最後の頁 1-19
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 千代田夏夫	4. 巻 74
2. 論文標題 エドモンド・ウィルソンにおける 民族 F・スコット・フィッツジェラルドのアイランド性をめぐって	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 鹿児島大学教育学部研究紀要. 人文・社会科学編(鹿児島大学教育学部)	6. 最初と最後の頁 69-77
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 後藤篤	4. 巻 新版14)
2. 論文標題 【研究ノート】情事のエスノグラフィ 『ロリータ』におけるモーターのクロノトポス	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Krug (日本ナボコフ協会)	6. 最初と最後の頁 14-20
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計15件 (うち招待講演 10件 / うち国際学会 1件)

1. 発表者名 千代田夏夫
2. 発表標題 エドモンド・ウィルソンにおける 民族 F・スコット・フィッツジェラルドのアイランド性をめぐって
3. 学会等名 日本比較文学会第84回全国大会ワークショップ「エドモンド・ウィルソンとその時代 批評の射程」
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 池末陽子
2. 発表標題 災難と救済 ポーとアポカリプスの寓話
3. 学会等名 エコクリティシズム研究学会第 34 回大会シンポジウム「<その後>の世界と文学 ポストパンデミック、ポストディザスター、ポストアポカリプス」(招待講演)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 池末陽子
2. 発表標題 Behind the Gothic Mask of the Red Death ポー的フィーマール・ゴシックの現在
3. 学会等名 日本ポー学会第12回年次大会シンポジウム「ポーとフィーマール・ゴシック作家たち」(招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 千代田夏夫
2. 発表標題 ウォートンの 荒地 リアリズムとモダニズムをつなぐ 女性の不毛 / 不能
3. 学会等名 九州アメリカ文学会第66回大会シンポジウム
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 後藤篤
2. 発表標題 映画化しきれない残余 Edward AlbeeのLolitaにおける翻案のポリティクス
3. 学会等名 日本アメリカ演劇学会第10回大会シンポジウム (招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 池末陽子
2. 発表標題 ホテル的空間の文化史序説 ウィリアム・ディーン・ハウエルズと19世紀末のホテル
3. 学会等名 日本アメリカ文学会関西支部例会シンポジウム「変容する<ホテル>の時空間」(招待講演)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 後藤篤
2. 発表標題 モーテルへの逃避 『ロリータ』をめぐるエスノケープ
3. 学会等名 日本アメリカ文学会関西支部例会シンポジウム「変容する<ホテル>の時空間」(招待講演)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 千代田夏夫
2. 発表標題 The Glimpses of the MoonとThe Great Gatsbyにおける ホスト/ゲスト ホスト/パラサイト のたゆたい
3. 学会等名 日本アメリカ文学会関西支部例会シンポジウム「変容する<ホテル>の時空間」(招待講演)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 渡邊克昭
2. 発表標題 錯乱のコズモボリス 『マーティン・ドレスラー』におけるポストヒューマン的身体としての「ホテル」
3. 学会等名 日本アメリカ文学会関西支部例会シンポジウム「変容する<ホテル>の時空間」(招待講演)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 池末陽子
2. 発表標題 「南方の人」ポー 日本ポー研究における「南部」の受容
3. 学会等名 日本アメリカ文学会第58回大会シンポジウム「アメリカ文学研究の終わらない戦後/南部/昭和」(招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 渡邊克昭
2. 発表標題 蘇るポストヒューマン・バトルビー デリーロの『ボディ・アーティスト』を導きの糸として
3. 学会等名 日本アメリカ文学会第63回関西支部大会フォーラム「メルヴィルとホイットマンの時代 生誕200年を記念して」(招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 後藤篤
2. 発表標題 Insomniac Dreamsを読む
3. 学会等名 日本ナボコフ協会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 千代田夏夫
2. 発表標題 Fitzgerald's 'Placelessness' and the Gothic
3. 学会等名 15th International F. Scott Fitzgerald Society Conference (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 千代田夏夫
2. 発表標題 『ちゃんとしないこと』 ヘミングウェイ作品における、非合法的な結婚の示すもの
3. 学会等名 日本ヘミングウェイ協会シンポジウム「ヘミングウェイと法」
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 千代田夏夫
2. 発表標題 エドモンド・ウィルソンにおける アメリカの戦争 とポー 大西洋間の往来をめぐって
3. 学会等名 日本ポー学会第13回年次大会シンポジウム「ポーと戦争」(招待講演)
4. 発表年 2022年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分担者	渡辺 克昭 (Watanabe Katsuaki) (10182908)	大阪大学・大学院人文学研究科(外国学専攻、日本学専攻)・教授 (14401)	
研究 分担者	後藤 篤 (Goto Atsushi) (70761980)	京都府立大学・文学部・准教授 (24302)	
研究 分担者	千代田 夏夫 (Chiyoda Natsuo) (80631887)	鹿児島大学・法文教育学域教育学系・准教授 (17701)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------